

石峰&抱月のふるさと『地域まるごと博物館』

# 波佐ネット通信

No. 33 2015.9.15

地域研究センター協議会

【参加団体】

西中国山地民具を守る会  
波佐文化協会  
能海寛研究会  
ほたる湯館G・ゴルフ場

## カルチャーミュージアム講座を終えて

5月から毎月一回開催した「カルチャーミュージアム（学べる博物館）」探検隊リレー講座は5回コースで、9月5日をもって無事終了した。参加者の意見を聞き、次年度も繰り返し開催することとなった。参加者の中で4回連続参加いただいた広島市の木村正昭氏より感想文をいただいたので、下記の寄稿文を掲載披露します。



### カルチャーミュージアム（学べる博物館）に参加して

広島市在住 木村正昭

「笠松峠の畳石路」は1,200mもの山路を整然と石をしいてあるのに驚きと加計の隅屋の財力の凄さを知った。江戸時代末期の日本の最大級の鉄山師といわれた力の強さ、又、石見の地へ進出した確かな証明ともいえる。

石の敷き方に工夫がしてあるのを聞き、工事の大変さ、工事をした人達の大変な苦勞を感じながら歩きました。

「波佐一本松城」は規模の大きい事と当時のままの状態でも残っているのに驚きました。今までに登った山城とは全く違い実践と防御を考えて堅堀の規模の大きさ、数の多さ等、難攻不落の城と思えた。自分の持っていた山城の常識を根底から覆す城であった。

「たたら製鉄」、かんな流しの遺跡も数多くあり。かんな流しで出た山土、石等を利用して棚田を作った事を知り、立派な棚田の謎が解けた気がしました。長年の謎でした。又、たたらが移動する時、金屋子神社も一緒に持って行った事や20年～30年後に山がよみがえる頃に、その場所が判るように、かつらの樹を植えて、次の地へ移動した事等、たたら製鉄が残した歴史のページが開かれた思いがしました。

現在金屋子神社がある地がたたら終焉の地であることを知り、今後の大きな参考になりました。

「巨樹・巨木」では、常磐の大杉は自然のままの大樹で人の手が入ってなく長い年月の姿を見て樹木が何かを語っているかの様な気を感じた。地元の人達の森を大切にしている気風には他の地域との違いを知った。このまま後世に残したい樹木が多く大事にしたいと感じた。数多くの史実といろいろな遺構を山の森が隠し眠らせている楽しみの多い不思議な地域、波佐の里であった。

又、案内していただいた隅田・植田様には大変お世話になり良い勉強の場を提供していただいた事、お礼申し上げます。有難うございました。

私の今後の勉強に波佐の地がベースになると感じています。(2015.9.12記)